

古代太上天皇の研究

中野渡 俊治 著

▶ A 5判・286頁／定価:本体 5,400円(税別) ISBN978-4-7842-1887-5 2017年3月刊行

太上天皇とは、讓位した天皇のことである。太上天皇の存在は「大宝律令」に規定されたことに始まり、奈良・平安時代以降多くの天皇が讓位し、太上天皇となった。王位継承が讓位によって行われ、また前君主の地位が国家の基本法に規定されたことは、世界的にも類例は少ない。

本書は、奈良時代から平安時代にかけての太上天皇を考察の対象として、律令法上の規定、『六国史』などの史書に見える実態や、上表文などに見る天皇や臣下との関係进行分析。太上天皇の成立背景・存在意義から、讓位後の天皇や臣下との関係に迫り、太上天皇の地位の歴史的変遷を解明するとともに、太上天皇が、皇位継承や天皇の正当性の問題に深く関わる様相を明らかにした。

◆◆目次◆◆

序章 本書の視点

八世紀の問題／九世紀以降の問題

第一部 天智天皇と不改常典

第一章 奈良時代の天智天皇観—皇統の問題から—

奈良時代における天智天皇の位置／皇位継承と天智天皇／天智天皇と藤原氏

第二章 不改常典試論

不改常典研究の論点／不改常典の用例と発言者／聖武天皇と天智天皇／不改常典とは

第二部 奈良時代の太上天皇

第三章 八世紀太上天皇の存在意義

春名説に対する疑問／太上天皇の行動の実例とその役割／皇統の正当性の根拠としての太上天皇

第四章 天平十六年難波宮皇都宣言をめぐる憶説

難波宮「皇都」宣言の論点／難波宮皇都宣言に至る経緯／元正太上天皇の行動／難波宮と紫香樂宮

第五章 孝謙太上天皇と「皇帝」尊号

孝謙太上天皇への「皇帝」尊号奉獻／孝謙太上天皇の「大事小事」分離宣言／孝謙太上天皇と紀寺奴の放賤従良問題／孝謙太上天皇と皇統の問題

第五章附論 『続日本紀』天平宝字二年八月庚子朔条「上臺」考

辞書における「上臺」の語釈／『続日本紀』注釈書における解釈／隋唐期における「上臺」の語の用例／隋唐期以前の用例／南朝・隋・唐での使用とその背景／日本への「上臺」の語の導入

第六章 藤原仲麻呂の大師任官

大師と太政大臣／仲麻呂の大師任官

第三部 平安時代の太上天皇

第七章 平安時代初期の太上天皇

延暦の太上天皇／平城太上天皇／譲り合う天皇・太上天皇

第八章 清和太上天皇期の王権構造

太上天皇と摂政／太上天皇と天皇／宇多太上天皇の場合／おわりに

補論 古代日本における公卿上表と皇位

上表とは／日本における上表の事例／公卿上表と皇位継承

終章 本書の成果と展望


史料出典 初出一覧

本書で扱った期間の太上天皇

なかのわたり・しゅんじ…1972年青森市生。東北大学大学院文学研究科博士前期課程修了、同博士後期課程単位取得退学。博士(文学)(東北大学)。東北大学大学院文学研究科助手・助教、東北大学百年史編纂室教育研究支援者などを経て、現在、花園大学文学部日本史学科准教授。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-533-6860 fax.075-531-0009
https://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行:思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	古代太上天皇の研究	本体5,400円(税別)	ISBN978-4-7842-1887-5	
お名前		tel		本書HPのQRコード	
ご住所	〒	e-mail			
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎				

※奈良朝人物列伝 『続日本紀』 薨卒伝の検討

林陸朗著

『続日本紀』には王臣・僧侶等の死没記事のあとに、その人の略伝的な記事を掲げることがある。これを薨卒伝といい、撰者の批評的記事を交えた極めて特色ある史料として注目される。本書は『続日本紀』収録の全54名の薨卒伝をとりあげ現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。権謀うずまく奈良朝政治のうら側が見えてくる。

▶A5判・468頁／本体7,000円

ISBN978-4-7842-1517-1

訓讀註釋 儀式 踐祚大嘗祭儀

皇學館大学神道研究所編

天皇一代一度の国家祭祀・大嘗祭の祭祀・儀式の全貌を示す、最も古い確かな文献である『儀式』(貞観儀式)。本書は、皇學館大学神道研究所が長年に亙り取り組んできた、現存本『儀式』巻二・三・四「踐祚大嘗祭儀 上・中・下」の訓読・注釈研究の成果。本篇の理解に資するために参考図を、注の検索のために注釈索引を本書末に配した。

▶B5判・890頁／本体15,000円

ISBN978-4-7842-1619-2

※日本古代宮廷社会の研究

瀧浪貞子著

思文閣史学叢書

先入観を極力排し、奈良・平安時代を連続して考察することにより、光明子立后論の盲点を衝き、学問的に忌避されがちな孝謙女帝の復権を果すなど創見に富む著者初の論文集。

【内容】Ⅰ 皇位と皇統／Ⅱ 場の政治学／Ⅲ 宮都の構造／Ⅳ 律令課役論断章

▶A5判・640頁／本体11,800円

ISBN4-7842-0677-9

藤原道長事典 御堂関白記からみる貴族社会

大津透・池田尚隆編

【2017年4月刊行予定】

『御堂関白記全註釈』(全16冊)の成果をふまえて、約1,050項目を新たに書きおろし、11の大分類に整理。各ブロック冒頭には、専門の執筆者による詳細な解説を収録。小項目は御堂関白記にみられるおもな語や表現を、分野別に網羅。おもな出所や出典・参考史料等も記載。最新の研究成果にもとづいた新たな平安朝の貴族社会像を提示する。

▶A5判・430頁／本体6,000円

ISBN978-4-7842-1873-8

日記・古記録の世界

倉本一宏編

日本の日記・古記録を題材として、日本史学、日本文学など関連分野の第一線の研究者がそれぞれの視点からその本質に迫った論文集。日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、さらには古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考を収録。

▶A5判・792頁／本体12,500円

ISBN978-4-7842-1794-6

日本中世の王権と権威 オンデマンド版

伊藤喜良著

更なる研究の活発化が予想される中世天皇制研究の展開。中世前期から室町時代にかけての、天皇制と公家政権にまつわる社会思想、民衆意識、身分制等を祭祀・説話・浄穢観・殺生等の鋭い切り口で分析した意義深い論文集である。(初版1993年)

▶A5判・414頁／本体8,300円

ISBN978-4-7842-7012-5

象徴天皇制の形成と定着

富永望著

「象徴天皇(制)」という言葉に着目して、この用語の使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明らかにすることで、象徴天皇制は新憲法の運用の積み重ねによって形成されたことを実証する、気鋭の書。

▶A5判・316頁／本体4,800円

ISBN978-4-7842-1492-1

世界遺産と天皇陵古墳を問う

今尾文昭・高木博志編

世界文化遺産登録に向けた動きのなかで浮かびあがる天皇陵をめぐる諸問題—考古学の成果との齟齬、天皇陵指定の経緯、陵墓公開運動、社会への広がり(ウェブ・教科書・報道)などを多角的に取りあげ、これからの天皇陵のあり方を考える。

▶46判・304頁／本体2,300円

ISBN978-4-7842-1872-1

※日本古代典籍史料の研究

鹿内浩胤著

史書・法制史料・儀式書・部類記など歴史学の土台をなす日本古代史の基本史料を対象に、原撰本へ如何にして接近するか、伝来論的アプローチを中心に「文献学的研究」と「書誌学的研究」の二部構成で研究の方法論を提示する。著者が発見した新史料『小野宮年中行事裏書』(田中教忠旧蔵『寛平二年三月記』)全丁の影印・翻刻も収録。

▶A5判・376頁／本体6,700円

ISBN978-4-7842-1552-2

九条家本延喜式 [全5巻]

東京国立博物館典籍叢刊編集委員会編

東京国立博物館所蔵の国宝・九条家本延喜式を紙背文書も含めて写真版で影印出版にし、朱書きがある箇所は二色刷とした。紙背は横長で掲載し、できるだけ一文書を一頁でみるようにトリミングを工夫。第5回配本に九条家本延喜式の解説と紙背文書全点の翻刻を付す。

▶A5判・平均500頁／各本体15,000円

◎第5巻は未刊

日本古代文書研究

渡辺滋著

古代中国から文書主義を継受した段階にはじまり、最終的にそれを換骨奪胎して日本的新秩序として再編成するまでの諸過程を、日本古代社会で作成・利用されたおもな文書形式(符・庁宣・下文、移、牒、解など)を対象として分析。古代社会における文書の機能に関する最新の研究成果を提示する。

▶A5判・480頁／本体9,200円

ISBN978-4-7842-1715-1

平安王朝の葬送 死・入棺・埋骨

瀧谷寿著

日本古代撰・院政期の天皇(桓武~安徳天皇)と貴族の葬送儀礼における具体相をさぐり、その相違点を考察する。平安王朝の死、入棺、葬送、埋骨の様相を通覧することから、皇権の在り方を考える。平安朝史研究にながくたずさわり、精通した著者によるこころみの一書。土葬から火葬への変遷が一覧できる表を付載。

▶46判・304頁／本体3,700円

ISBN978-4-7842-1832-5

※後鳥羽院政の展開と儀礼

谷昇著

後鳥羽天皇(上皇)が課せられた政治課題とそれに対する対応=政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証することにより、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図したものである。

▶A5判・328頁／本体6,000円

ISBN978-4-7842-1536-2

天下人の神格化と天皇

野村玄著

豊臣秀吉や徳川家康の神格化が、なぜ近世前期の政治過程において要請され、それらはどのように実現したのかを解明し、そこでの天皇・朝廷の行動と意味を再検討するとともに、その後の徳川将軍家が天下人の神格や天皇・朝廷といかに向き合ったのかを、綱吉期までを視野に入れ叙述する。

▶A5判・384頁／本体7,000円

ISBN978-4-7842-1781-6

明治期における不敬事件の研究

小股憲明著

天皇を中心とする明治政府の誕生以来、数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった不敬事件を、明治期について網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明らかにしようとする大著。

▶B5判・576頁／本体13,000円

ISBN978-4-7842-1501-0

歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

天皇・皇族の墓である陵墓は、現在宮内庁の管理下にあり、一般の立ち入りが厳しく禁じられているため、文化財としての陵墓の調査・研究は進んでいなかったが、近年になって、学界の要請をうけて限定公開されている。各時代の陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、その歴史をやさしく説く。

▶A5判・340頁／本体2,500円

ISBN978-4-7842-1514-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年2回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。 ※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。